

しかおい議会だより

第167号

6月定例議会

町政を問う・一般質問

総務文教常任委員会と

地域おこし協力隊との懇談会

第8期第三者審議会スタート

議員塾に参加

P2

P4

P7

P7

P8

「ついに」

撮影者 鹿追高校写真部2年

かや もり あおい
萱 森 葵 さん

6月7日 鹿追高校完歩大会
学校から然別湖まで26km完歩



議会ホームページ

検索

■発行者 北海道鹿追町議会

■2025（令和7）年7月25日発行

【E-mail】 gikai@town.shikaoi.lg.jp

【URL】 <https://www.town.shikaoi.lg.jp/>

2025年7月

鹿追高校寄宿舎を整備、 図書館管理システムを導入

6月定例議会が6月12日から18日までの7日間で開催された。条例改正、補正予算、財産の取得、人事案件等を審議し、全て原案どおり可決した。

一般会計予算は、歳入歳出にそれぞれ1億3684万円を追加し、総額を81億3880万円とした。

主な条例改正

- 鹿追町町税条例（専決処分）
軽自動車税種別割課税区分のうち、総排気量125cc以下で最高出力4.0kw以下の新基準原付分を年額2000円とした。
- 鹿追町町税条例
個人住民税
特定扶養控除について、19歳以上23歳未満の扶養親族等の所得要件を年収160万円以下に拡大し、一定所得超過時も段階的に減らす制度を導入する。令和8年度分以後適用。
- ・たばこ税
加熱式たばこの課税方式を、紙巻きたばこの本数を基準とする方式に改める。



国民健康保険税 課税限度額を改正

主な補正予算

脱炭素推進

- 役場周辺エリアZEC化モニタリング支援業務委託
1100万円
- 施設改修事業の設計について、ZEB化基準水準確保のため定期検査を実施する。
- 国の補助金を活用する。

デジタル化推進

- 図書館管理システム導入事業
1144万円
- 図書館管理システムを導入し、図書の貸し出し管理等を行う。利用者は、インターネットによる蔵書検索や予約が可能となる。国の補助金を活用する。



電子契約システムの導入によるインターネット予約の可視化

電子契約システム導入事業

- 71万円
- 電子契約システムを導入し、インターネット上での契約締結を可能とする。過去の契約内容の検索も可能となり、収入印紙が不要となる。
- 国の補助金を活用する。

介護予防

○地域ふれあいサロン事業

- 9万円
- 地域介護予防活動支援事業「地域ふれあいサロン事業」の補助金交付要綱を改正し、一律補助から参加人数に応じた変動制とした。国・道補助金を活用する。
- ※関連質疑P3

トリムセンター備品購入

- 80万円
- 券売機購入
トリムセンター浴室の入浴券売機を更新する。



入浴券の券売機を更新

地域経済活性化・商業振興

- プレミアム付き商品券発行事業
1650万円
- 活き生き商品券運営実行委員会（構成団体：商工会・J・A・町）による商品券発行事業を支援する。
- 商品券の割増率は25%で、利用期間は令和7年11月4日から令和8年1月16日を予定。



シェアハウスとして改修する教員住宅

鹿追高校支援

○鹿追高校寄宿舎整備事業

- 6200万円
- 鹿追高校生徒の全国募集に対応するため、緑町の教員住宅を改修し、寄宿舎7戸21室及びハウスマスター棟1戸を整備する。これにより、生徒用居室は緑町のシェアハウスタイプが11戸33室、元町のドミトリタイプが40室、合計73室となる。
- 国の補助金を活用する。

○くらし応援補助事業

- 150万円
- 商工会が実施する年末謝恩大売り出し「生活・応援セール」事業を支援する。売り出し期間は令和7年11月5日から令和7年12月19日を予定。

特産品開発

○地域おこし協力隊委託料

- 412万円
- 地域おこし協力隊制度を活用し、特産品等の商品開発、プロモーション事業を行う。

人事案件

請願・意見書

- 国保病院会計
パソコン購入 227万円
サポート期間が終了するため、パソコン13台を更新する。
- 顔認証カードリーダー
41万円
- 財務会計システムデータ移行業務委託料
59万円
- 簡易水道事業会計
断水事故による補償金 331万円

- 副町長に渡辺雅人氏
任期満了に伴う副町長人事案について、渡辺雅人氏の選任に同意した。
- 任期は令和7年7月1日から令和11年6月30日まで。



渡辺雅人氏

- 断水事故による補償金 331万円
- 5月10日から5月13日にかけて発生した断水事故に対し、水道施設管理事業者から補償を受けた。
- 補償金は、修繕、町民配布用飲料水、職員手当ほか、復旧に要した経費に充当した。

財産取得

- 小・中学校用コンピュータ
1789万円
- 小型除雪車 3663万円
(草刈り等付帯装置別)



小型除雪車を更新



草野礼行氏

- 教育委員会教育長に草野礼行氏
教育長の退任に伴う教育委員会教育長人事案について、草野礼行氏の任命に同意した。
- 任期は令和7年7月1日から令和10年3月31日まで。

- ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書
- 北海道の森林は全国の4分の1を占め、地球温暖化防止等の多面的機能発揮が期待される。
- 2050年カーボンニュートラル実現に向け、伐採後の植林、木質バイオマス活用等

主な質疑

地域ふれあいサロン事業

（清水浩徳議員）

問 地域ふれあいサロン事業で、補助金の見直しを行った団体の内訳は。

答

地域ふれあいサロン事業補助金のうち、介護予防体操事業の交付要綱を改正した。一律補助から参加人数を5段階区分とし、ふまねつとの会が5万円（4万円増）となった。

高齢者サロン事業では、参加人数の増加により、友遊マージャンサロンが12万円（2万4000円増）、2010年の会が3万4000円（2万6000円増）となった。

議員とカフェでひとこと

議会では、皆さまとの意見交換ができる懇談の場を設けています。まちや議会に関する疑問や意見、ちょっと気になる話題等、気軽にお話ししませんか？

令和7年8月26日（火）午前11時00分 平成館にて開催

安藤 幹夫 議員と川染 洋 議員がお待ちしております！（予約は不要です）

町政を問う。

6月17日、4人の議員が
一般質問を行った。



金子 孝伸 議員

地域コミュニティ

Q 部活動の地域移行による持続可能な地域コミュニティ構築は

A 魅力ある地域スポーツ

環境の実現に取り組む

(質問) 昨今の様々な環境変化に伴い、子どもたちの部活動の地域移行を国も町も推進している。

(回答) 単に学校から地域へ活動を移すのではなく、子供たちと地域の大人や高齢者がスポーツ、文化活動を楽しみ、互いに教え合う「世代間交流型コミュニティ」の構築が必要と思うが。

(質問) 渡辺教育長 「世代を超えて学び合

い・支え合う持続可能なスポーツ・文化芸術コミュニティ」の形成を目指す。子どもたちが地域の大人や高齢者と自然に交流し、互いの知識や経

験を生かし合う場の創出が目標である。将来的には総合型地域スポーツクラブが学校部活動の受け皿となり、多世代が参加・交流する地域社会の活性化を図りたい。

具体的スケジュールは未定だが、国は令和8年度から13年度までの6年間を「改革実行期間」とし、夏頃に全国の取組状況を公表、冬頃にガイドラインを改訂する。これらの情報を注視しながら具体的検討を進める。

(回答) 渡辺教育長

部活動の地域展開で最も大切なのは、子どもたちが将来にわたり持続的にスポーツや芸術活動に携われる環境づくりである。地域移行は手段の一つであり、目的ではない。指導者確保や金銭的問題等の諸事情を把握しながら、地域全体で子どもたちの多様な活動をどう支えていくかを検討し、よりよい鹿追町の形に展開していきたい。



スポーツセンターとソフトボール場（手前）

行政事務の効率化・高度化に向けAI活用を

A 人材育成・業務改革・技術導入を進める

AI活用

金子 孝伸 議員

(質問) 鹿追町は、住民サービスの利便性向上と庁内業務効率化を総合計画でも重要施策として掲げている。

また、急速な人手不足に直面している今、DX（デジタルによる、より良い生活環境への変革）やICT（デジタル通信技術）を活用することで、

本来の行政の役割である「顔と顔を合わせて住民の声を聴き、そのことをどう実現するかを考え応える」ことに注力できると考える。

その解決策の一つと考えられるAIの活用についての考えは。

(回答) 喜井町長 生成AIをはじめとする先端デジタル技術の急速な進展により、行政事務に革新の可能性が生まれている。

国は生成AI活用ガイドラインを策定し、安全性・正確性・透明性の確保と職員の理解が重要と示した。

人口減少・少子高齢化により自治体職員数減少が課題となる中、2040年頃には現在の半分の職員数でも担うべき機能が発揮されること が求められ、DX推進が不可欠である。

鹿追町では「DX推進計画」を策定し「しかお



6月23日RPA、生成AI職員研修を実施

大規模停電及び

断水発生時の対応は

最大限対応できるよう

取り組む



佐々木 康人 議員

災害対応

(質問)

5月10日、町内の上幌内地域、幌内地域、西笹川地域において約4日間 にわたる断水事故が発生した。

この断水の原因と対応、及び今後の対策について伺う。

また、十勝全域にわたる大規模な地震災害も懸念される。

2018年の胆振東部地震に伴う、大規模停電（ブラックアウト）については記憶に新しいところである。

将来的にこういった大規模停電や断水を想定して町ではどういった対応を行っているのか。

(回答) 喜井町長

断水事故は、上幌内

地域、幌内地域、西笹川地域において約87時間にわたり地域109世帯、261人の皆様方の生活や営農活動に大きく支障をきたす結果となった。原因は、担当職員の導水ポンプ操作の不備、誤りと警報装置が正常に作動しなかったことにより、貯水池の水が空になったためである。

断水発生後は、貯水池へ消防水槽車及び散水車にて送水を行い、水道管路に水を送る作業を開始すると同時に該当地域の住民への飲料水、生活水の供給と酪農家への牛の飲み水の対応、防災無線により町民の方々へ随時周知も行った。

人的ミスが二度と起こらないよう、操作手順の



上幌内配水池

再確認、チェック体制の強化、担当職員への教育と訓練等を行い、合わせて警報装置等の再点検を行う。

今後、想定される大規模災害に対して、町として最大限対応できるよう取り組む。

合同納骨墓整備に関する ニーズ調査を実施する考えは 調査実施に向け 内容・方法を検討する

合同納骨墓



かりの まさお 狩野 正雄 議員

(質問)

少子高齢化、核家族化、過疎化が進む中で、お墓に対する意識の変化がある。

お墓を継承管理する人が不在となったり、後の人に負担をかけたくない

等、さまざまな理由により終活として墓じまいをする人もいる。

墓の維持管理だけでなく、寺院への納骨ができずにいる人等、さまざまな状況や環境で不安を抱えている人がいる。

十勝管内の自治体では、帯広市等で合同納骨墓が設置されており、町民からも、合同納骨墓の整備を求める声がある。

この件は、2019年3月の一般質問でも取り上げているが、6年経過した中で現在のニーズはどうなのか、合同納骨墓に対する町民アンケートを実施する考えは。

(回答) 喜井町長

少子高齢化、核家族化等の進行により、お墓を取り巻く環境は変化している。

「お墓の維持管理が困難な状況にある人」「経済的理由等により墓じまいする人」「お墓の建立やお寺に納骨ができない



葬斎場と笹川墓地

まま、自宅にお骨を保管している人」等、そのような状況を解決する方法の一つとして合同納骨塚（墓）を設置する市町村がある。

合同納骨墓整備については、住民からも「まちなか会議」や「やまびこメール」等で意見をいただいている。

合同納骨墓は、一度納骨すると埋葬後はお骨を返還できない等、制度について親族に同意を得ることが重要である。

町民アンケートは、設置する上での課題も踏まえ、調査の内容、方法等について検討し実施したい。



第8期 鹿追町議会議員定数・報酬及びあり方等審議会（第三者審議会）スタート

6月23日、第8期審議委員として福井博幸氏、林正信氏、佐藤由紀子氏、三反崎里香氏、正保縁氏の5人を再任し、議長から辞令書を交付した。委員の互選により正保氏が会長に選出され、会長職務代理者には佐藤氏が指名された。任期は令和9年3月31日まで。

審議会終了後、全議員との懇談会を開催し、定数・報酬等について意見を交わした。



左から、正保会長・佐藤職務代理者・福井氏・三反崎氏・林氏、手前 上嶋議長

総務文教常任委員会と地域おこし協力隊との懇談会を開催

6月18日、役場3階委員会室において総務文教常任委員会と地域おこし協力隊の懇談会を開催した。今回は顔合わせを主な目的とし、5人の協力隊員が参加した。

懇談会では、自己紹介をはじめ、現在の業務内容や鹿追町に対する感想等についてお話しいただいた。多様な分野で経験を重ねた協力隊員の皆さんからは、住民では気づかない地域の特性や魅力についても貴重なご意見をいただくことができ、様々な観点から町の現状について理解を深めることができた。



後列左から、安藤委員・清水委員・金子委員・佐々木副委員長、前列左から、寺島さん・山口委員長・上原さん・上嶋議長・松下さん、錦光山さん・安久津さん

学校給食試食会

5月20日、町共同調理場産加工室で、町長・副町長・教育長・教育委員・町議会総務文教常任委員の12人が出席し、学校給食の試食会が行われました。



メニューは、ご飯・みそ汁・肉じゃが・あじフライ・牛乳



共同調理場産加工室で試食会

令和7年

第2回議員塾 塾生募集



この機会にぜひ参加してみませんか？次ページに第1回参加者の感想等を掲載していますので、ご覧ください。

内 容		日 時		場 所
開塾式		8月 28日（木）	10:00	委員会室
議会の概要・議会の取組・議会活動		8月 29日（金）	午前・午後・夜間	委員会室
傍 聴	総務文教常任委員会	9月 2日（火）	9:30	委員会室
	産業厚生常任委員会	9月 3日（水）	9:30	委員会室
	議会運営委員会	9月 5日（金）	15:00	委員会室
	定例議会 一般質問	9月 16日（火）	10:00	議 場
	決算審査特別委員会	9月 18日（木）	9:30	議 場
まとめ・閉塾式		9月 22日（月）	時間未定	委員会室



申し込みQR

※上記日程は変更になる場合がありますのでご了承ください。

申し込み：氏名（ふりがな）・住所・生年月日・電話番号を明記のうえ、下記のいずれかからお申し込みください。
（鹿追町議会事務局） ・TEL：0156-66-4039 ・FAX：0156-66-4041
・メール：gikai@town.shikaoi.lg.jp ・申し込み QR コード

（質問） 男女共同参画社会推進の政策への位置付けや取り組み状況、そして女性管理職比率の現状と課題は。
（答弁） 喜井町長 男女共同参画は重要だと認識している。女性管理職比率は、特定事業主行動計画により、現在16・0％、係長職は目標40％に対し31・5％である。性別に関わらず職員が能力を発揮できる職場環境整備、適材適所の人材配置、職員研修の充実を図っていく。

（質問） まちづくりには男女双方の視点が欠かせない。国の基準で算定すると、鹿追町の女性管理職比率は4・2％であり、目標の30％には程遠い。過去10年間で横ばいの現状をどう改善するのか。
（答弁） 喜井町長 女性管理職が少ないのは、働きづらさを生む社会制度も一因であるが、ロールモデルの不在や自己評価が低い、家庭との両立の不安などがある。女性職員が自信を持って活躍できるよう、管理職研修の強化に加え、女性職員によるワーキンググループを組織し、当事者の意見を取り入れては。



6月20日から7月6日まで図書館に男女共同参画コーナーを設置

（質問） 女性職員が能力を発揮できるよう後押しすることは必要であり、女性職員の意見を吸い上げることは大切なことだと思う。
（答弁） 喜井町長 男女共同参画セミナーの周知も強化したい。



山口 優子 議員

男女共同参画

Q 女性管理職比率が低い現状をどうするか
A 男女ともに働きやすい職場環境づくりに取り組む

カナダ・ストニブレイン町姉妹都市提携締結40周年記念友好訪問団派遣報告 山口 優子

令和7年5月21日～5月29日

このたび、ストニブレイン町姉妹都市提携締結40周年記念友好訪問団の一員として、議会からは上嶋和志議長と共にカナダ・アルバータ州を訪問しました。現地の方々の温かさに支えられながら、貴重な交流体験を積むことができました。

馬車での壁画ツアーでは両町の歴史的つながりを実感し、40周年記念パーティーでは先住民族の伝統芸能を鑑賞。その演奏や踊りから北海道のアイヌ民族との共通点を感じ、自然と共に生きる民族文化の普遍的な美しさを発見しました。

元町長ドナ・コーワンさん宅での4泊のホームステイでは、家族のような温かい歓迎を受け、ドナさんとは「地域の声を行政に反映させたい」という政治への想いを共有できました。

また、ストニブレイン町役場内の議場も見学し、議会制度や「住民参加の在り方」の違いを学びました。ストニブレイン町では議場中央に町長席、その両隣に議員席が配置されています。それに向かい合う形で町民の席が配置されており、町民が議場で

直接発言できる「パブリック・ヒアリング」という双方向の対話システムが根付いています。これに対し日本では、町長と議員が対峙する構造で、町民は傍聴のみとなっています。

カナダのように住民が行政に直接声を届ける文化は、地域課題への当事者意識を育みます。鹿追町でも、町民と行政・議会の距離を縮め、形式的な説明会を超えた自由な意見交換の場づくりが必要だと強く感じました。

今回の訪問で「多様性を受け入れることの大切さ」と、国を越えて人と人とのつながりを実感することができました。この貴重な経験を、今後のより良いまちづくりに活かしていきたいと思います。



つぶやき

■ 両親の古いアルバムの整理中。各家庭にある写真を持ち寄り、コメントと映像をデジタルアーカイブとして、地域を知る情報として未来に残したい。



つぶやき

■ あわわ、体重が。とおののきながらもう一杯。

第1回議員塾に参加



2月20日 開塾式

令和7年2月20日から3月19日の日程で、鹿追町議会初となる「議員塾」を実施しました。

これは、地方議会の仕組みや鹿追町議会の概要・取り組み、本会議に向けた委員会の流れ、また、議員のやりがいや、議会のない期間の過ごし方等、議員の日常を知ってもらうための試みで、説明は現職議員が行いました。

第1回目となる議員塾には、町内にお住まいの榎野さんご夫妻が参加し、座学や委員会及び本会議の傍聴を行いました。

榎野啓介さん

移住して5年目、コロナ禍に子どもを授かり、行政に触れる機会が増えたことで議会への好奇心が高まっていた中での参加でした。

夫婦のみの参加となり、少し面を喰らいましたが、現職議員から濃密なレクチャーを受け、実際の委員会や定例会に参加することで、認識を新たにしたポイントは多かったです。

その場にいる人々の、それぞれの役割や価



開塾式後 議場を見学

値観、主義主張が混ざり合う真剣な議論の末、この町の予算が決まっていくプロセスを拝見し、鹿追町議会の実態を垣間見る事ができたのは大きな収穫でした。

今後も「自分ならどうするか」という視点で町議会議員という仕事に関心を寄せ、この町で遅く生きていきたいと決意を新たにしました。

第1回議員塾生

くしの けいすけ
榎野 啓介さん（左）

くしの みほ
榎野 美萌さん（右）



編集後記

地域おこし協力隊と議員との懇談会があり、様々な経歴や知見を持った方々との話は大変興味深かった。各地から集まった協力隊員は、地域課題に対して新鮮な視点からアプローチしており、地元の間では気づかない魅力や可能性を教えてくれる。固定観念にとらわれない疑問や提案は地域にとって財産だ。

そもそも北海道はアイヌの人々以外、元をたどれば「よそ者」だらけの土地である。開拓時代から多様な価値観を受け入れてきたこの地だからこそ、新しい血を歓迎し、異なる視点を尊重することが重要だ。新鮮な視点を大切に、積極的に「見て、聞いて、話す」姿勢を実践していきたい。

議会広報部会 部会員 金子孝伸

議会広報広聴常任委員会 広報部会

部会長 佐々木康人
副部長 山口 優子
部会員 青砥 敏一
金子 孝伸
黒井 敦志